

次世代機関リポジトリ

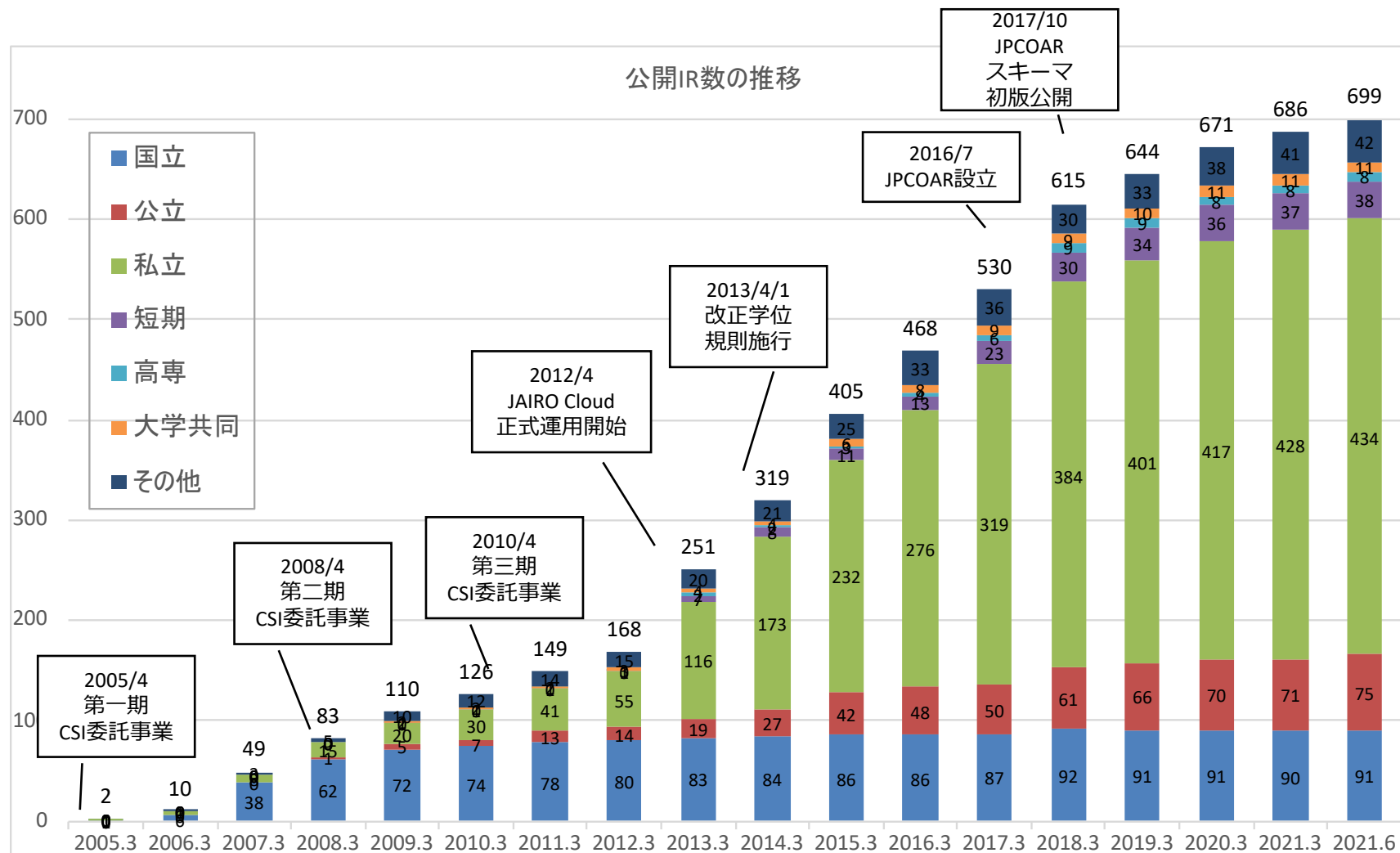
学術情報オープンフォーラム2021

2021年7月8日

国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター
林 正治

機関リポジトリの状況

日本の機関リポジトリ数の推移

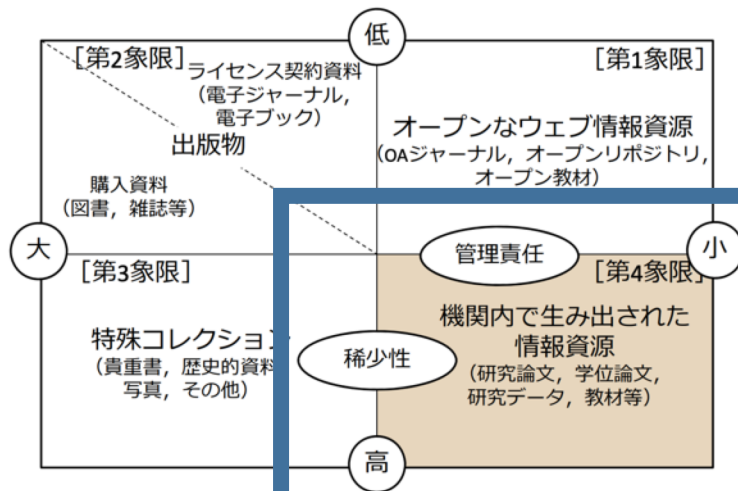


Data by IRDB

※共同運用リポジトリも1リポジトリとしてカウント

機関リポジトリコンテンツの内訳

大学図書館が扱うコンテンツ

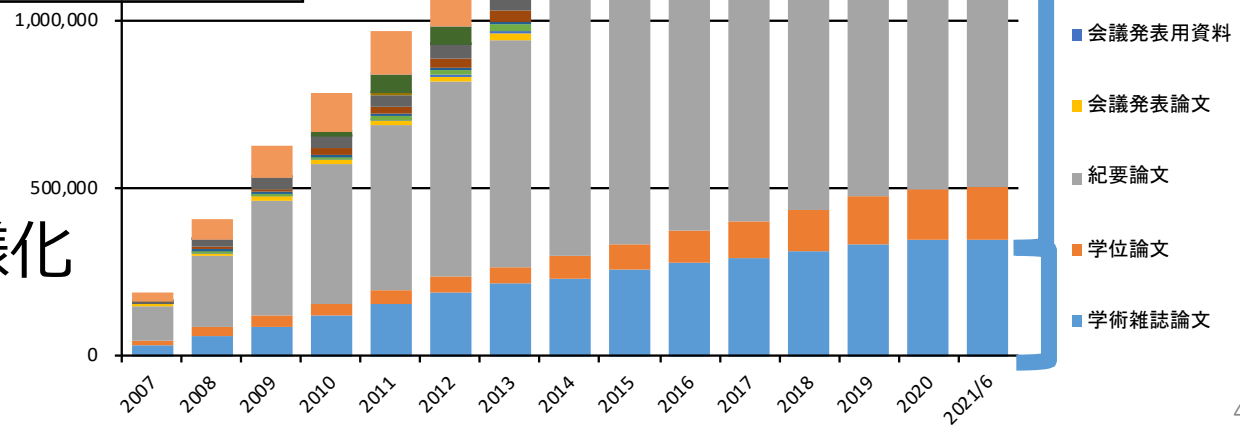


参考：
Malpas, Constance. Reconfiguring Academic Libraries
<http://oclc.org/content/dam/research/presentations/malpas/umtc2011.pdf>

3

OAサミット2014 セッション1：機関リポジトリによるオープンアクセスの新展開 2014/10/22

- その他
- ソフトウェア
- データセット
- 教材
- プレプリント
- 記事
- 研究報告書
- テクニカルレポート
- 図書
- 会議発表用資料
- 会議発表論文
- 紀要論文
- 学位論文
- 学術雑誌論文



グリーンOAの推進

収載コンテンツの多様化

Open Access から Open Scienceへ

“Open Science is defined as an inclusive construct that combines various movements and practices aiming to make scientific knowledge openly available, accessible and reusable for everyone, to increase scientific collaborations and sharing of information for the benefits of science and society, and to open the processes of scientific knowledge creation, evaluation and communication to societal actors beyond the traditional scientific community. ”

(DRAFT TEXT OF THE UNESCO RECOMMENDATION ON OPEN SCIENCE, 2021.3.31)

オープンサイエンスとは、科学的知識を誰もが自由に利用でき、アクセスでき、再利用できるようにすること、科学と社会の利益のために科学的協力や情報の共有を増やすこと、従来の科学コミュニティを超えた社会的アクターに対して、科学的知識の創造・評価・コミュニケーションプロセスを開放することを目的とした、さまざまな運動や実践を組み合わせた包括的な概念と定義される。

Open AccessはOSの重要な柱の一つ

狭義のOAだけでなく

多様な学術成果（RoV）に対するOAが求められている

機関リポジトリに対する要請

- **公的資金による論文のエビデンスとしての研究データは原則公開**とし、その他研究開発の成果としての研究データについても可能な範囲で公開することが望ましい。
- 公的資金により得られた研究データについて、産学官における幅広い利活用を図るため、**2023年度までに体系提起なメタデータを検索可能な体制を構築**することも求められる。
- **研究開発を行う機関**は、データポリシーの策定を行うとともに、機関リポジトリへの研究データの収載を進める。
- **4-2 機関リポジトリへの研究データの収載と研究データへのメタデータ付与の推進**
- **研究開発を行う機関は、管理対象データへのメタデータ付与を進めるとともに、研究者による機関リポジトリへの管理対象データの収載を進める。**また、分野別リポジトリや汎用リポジトリへの管理対象データの収載を妨げるものではないが、この場合においても、**研究データ基盤システム上での検索を可能とすべき**であるため、管理対象データへのメタデータへの付与を進める。
- 令和3年4月27日 統合イノベーション戦略推進会議「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」より抜粋

機関リポジトリへの研究データ登録が明記

オープンアクセスを 取り巻く状況

Open Accessの推進



従来の流通プラットフォームを活用したOAモデル

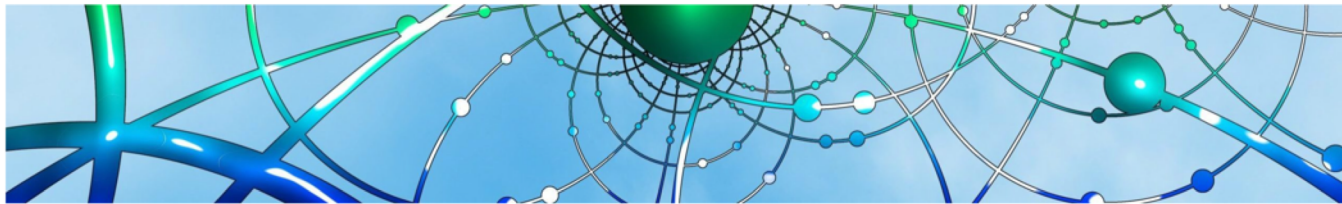


従来の流通プラットフォームからの脱却を目指したOAモデル

リポジトリとのサービス連携



Notify: Repository and Services Interoperability Project



Principal Investigators

1. Kathleen Shearer, COAR
2. Martin Klein, Los Alamos National Laboratory

Project Overview

Our current research and social context – the coronavirus pandemic, economic upheaval, climate change, racial injustice – requires timely and reliable research results, shared by, and with, all parts of the world.

On January 28, 2021, COAR launched the *Notify: Repository and Services Interoperability Project*. The aim of this project is to develop a standard and

Links and Resources

- [CNI presentation – March 2021](#)
- [Notify documentation](#)

ピアレビューサービスとリポジトリとの連携
→既存の出版経路からの脱却を目指している

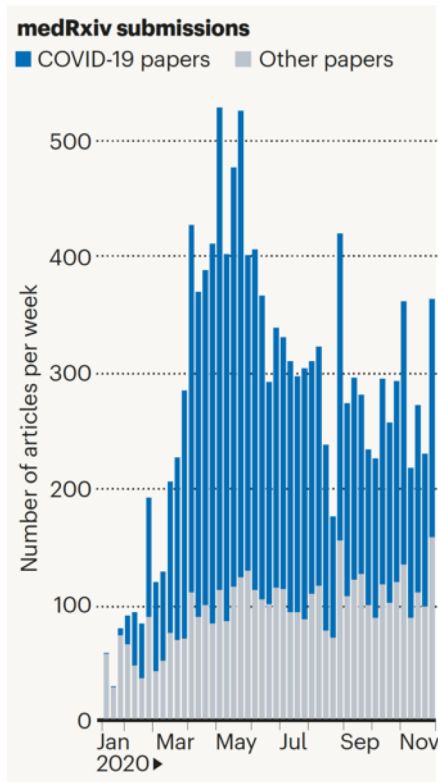
プレプリントによる研究成果共有の加速化

NEWS | 16 December 2020 | Clarification 17 December 2020

How a torrent of COVID science changed research publishing – in seven charts

A flood of coronavirus research swept websites and journals this year. It changed how and what scientists study, a *Nature* analysis shows.

Holly Else



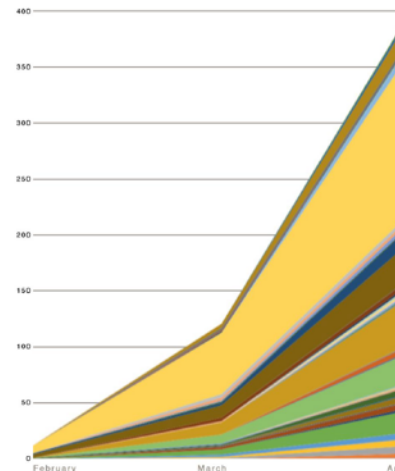
Connected in Science

How arXiv facilitates global interactions during the pandemic and beyond

Eleonora Presani, Executive Director, arXiv

arXiv

March madness



In March 2020 arXiv started to receive about a hundred papers per week on COVID related research.

COVID papers flew in through different categories: from quantitative biology to computer science, from social media applications to statistics.

どう考えていくか？

日本のOAをどう進むのか？

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会



日本の研究成果に対するOAの実現

グリーンOA

灰色文献のOA

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

研究データのOA



Japanese
Institutional
Repositories
Online
Cloud

NII 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics



分野リポジトリ



大学図書館
コンソーシアム連合

ゴールドOA



OA出版

機関リポジトリへの期待と課題

- 研究データ公開プラットフォーム
 - データポリシーの策定
 - 機関としての合意をどこまでとれるか？
 - 研究データマネジメント部会(RDM部会)「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」
 - 機関リポジトリの収載対象
 - 機関は構成員すべての研究データを受け入れられるか？
 - 個々の機関リポジトリはZenodoやFigshareに流出している研究データの受け皿となれるか？
 - プレプリントは対象となるか？ COAR語彙は追加された、JPCOARスキーマに追加される
- OAプラットフォーム
 - Green OAの推進
 - グリーンOAの需要がなくなることはない？
 - OA出版
 - 紀要論文の受け皿にはなっているが、ピアレビュー等の品質管理機能は弱い。需要はあるのか？

JAIRO Cloud



研究成果



Japanese
Institutional
Repositories
Online
Cloud



WEKO3

- 保存、流通メタデータの拡張性
- ワークフロー機能のカスタマイズ性
- プレビュー機能のカスタマイズ性
- ストレージ拡張性
- 機能拡張性

研究成果の多様性への対応を考慮して開発

JAIRO Cloudとして

- 研究データ公開プラットフォーム
 - データポリシーの策定
 - ポリシの実装とJAIRO Cloudの連動をどのように進めていけるか？
 - 機関リポジトリの収載対象
 - 機関は構成員すべての研究データを受け入れられるか？ JAIRO Cloudとしての受け皿提供の需要はありそうか？ その場合の機関との棲み分けはできるか？ コスト負担モデルは？
 - 機関ストレージの活用可能性
- OAプラットフォーム
 - グリーンOAの推進
 - OA推進のための機能拡張の推進。
 - OA出版
 - 紀要論文の受け皿にはなっているが、ピアレビュー等の品質管理機能は弱い。 JAIRO Cloudとして対応を検討してくべきか？ 需要はあるのか？
 - 他に足りてない機能は？

議論を深めていければ